

「子どもを養育する生活困窮世帯」への支援技術修得のための 保健師教育方法の検討（ご協力をお願い）

公衆衛生看護学Ⅰの授業（2024 年 5 月 22 日に実施）で教材として使用された到達度自己評価表、知識確認レポート、事例ワークシートを、下記のように分析させていただきたいと存じます。ご理解いただき、ご協力ください。

1. 研究の目的

子どもを養育する生活困窮世帯への対策は喫緊の課題です。看護職の支援の期待度と重要度は非常に高いのですが、看護のカリキュラムは過密であり、独立した科目設定は困難です。そこで、短時間で焦点を絞った学習方法を工夫し、公衆衛生看護学Ⅰで講義を行いました。保健師基礎教育での本授業の効果を研究として検証したいと考えます。

2. 研究の方法

公衆衛生看護学Ⅰの「貧困と生活に係る対策と支援」の授業時に実施した、到達度自己評価表、知識確認レポート、事例ワークシートを対象として、授業のあり方を検討いたします。

研究期間は、承認日～2027 年 3 月 31 日までです。レポート等は、公衆衛生看護学Ⅰの成績評価が終了した後、授業や評価に関わっていない者が学生番号、氏名部分を削除し、個人とは無関係な番号を記載した状態で借ります。研究者は個人を特定することが出来ない状態のレポート等を、電子データとする入力作業を行います。

電子データとして入力された後は、特定の外付けハードディスクに保存し、問い合わせ・論文作成の期間も含め、鍵のかかる場所で 5 年間保存させていただきます。その後は復元できないよう破棄いたします。

3. 研究への参加協力の自由意思と拒否権

研究へのご協力は自由であり、お断りになることへの不利益は一切ございません。

学業成績や評価、卒業要件にも一切関係ございません。

研究にご自身の情報が使用されることについてご了承いただけない場合、

2024 年 9 月 16 日までに右記 QR コードでご連絡ください。

レポート等を授業や評価に関わっていない者が除外いたします。

【 子どもを養育する生活困窮世帯」への
支援技術修得のための保健師教育
方法の検討 】の研究協力について



4. 研究により期待される利益および不利益

本研究により、「子どもを養育する生活困窮世帯」への対策を実施できる保健師基礎教育の効果的な方法を検討できると考えられます。本研究は、匿名化されたデータを二次的に利用するものであり予測される不利益はありません。また、この研究に関して謝金の支払いはありません。

5. 対象者に生じるリスクや影響、それらへの措置

提供を受けたデータを分析することによって、対象者に生じるリスクはありません。

6. 研究結果の公開方法

研究結果につきましては、学会発表及び学術雑誌への投稿をさせていただきます。

ご希望があれば、結果の説明をいたしますので、担当者にご連絡ください。

広島大学大学院医歯薬保健学研究科 地域・学校看護開発学

〒734-8551 広島市南区霞 1-2-3

研究責任者 川崎 裕美

研究担当者 久保木紀子（博士課程後期） Mail : d182833@hiroshima-u.ac.jp